

6.5.1.1.2 予測

1) 予測の概要

工事中の機械処理水の排水による轟川における水の濁り（赤土等の流出）の予測の概要は、表-6.5.1.1(10)に示すとおりである。

表-6.5.1.1(10) 土砂による水の濁り予測概要

予測項目	河川水のSS濃度
影響要因	造成等の施工による一時的な影響
予測地域	轟川への機械処理水の排水地点付近及び轟川
予測対象時期等	機械処理による処理水の排水時における降雨時及び平常時
予測方法	単純希釈式によって河川水質を予測

2) 予測方法

(1) 予測の前提

工事における水の濁りの予測に当たっては、「赤土等流出防止対策技術指針（案）」（平成7年、沖縄県土木建築部）に基づき、赤土等の流出を防止することを基本として、各種の現場状況に応じ適切な発生源対策を実施する。発生源対策によって抑制された濁水については、地下浸透方式や機械処理方式の濁水処理対策を実施することを前提とした。機械処理方式の濁水処理対策は南側仮設調整池で計画されている。南側仮設調整池では地下浸透処理を基本とするが、機械処理設備を設置して工事中の雨水排水処理を行う。機械処理設備の計画概要は表-6.5.1.1(11)に示すとおりであり、処理水は轟川へ排水する。

工事中において、機械処理設備を稼働させる場合は以下の2ケースとしている。

- ①平常時：降雨終了後に轟川が平常流量に戻った時点で機械処理設備を稼働させる。南側仮設調整池が満水時においては、機械処理設備の能力からすると、最大でも約10日間で調整池の濁水の排水処理が完了するものと想定している。
- ②降雨時：降雨が連続し、南側仮設調整池の貯留能力を超えるおそれのある場合は、降雨時に機械処理設備を稼働させ、轟川へ排水する。

表-6.5.1.1(11) 機械処理設備の計画概要

処理方式	機械処理方式（凝集剤添加）
処理量	360m ³ /h (0.1m ³ /s)
処理水濃度	SS濃度 25mg/L以下